

調査 年 度	ス ポ ッ ト No.	照 会	回 答
R4	63	溪谷 ・ツメレンゲなどが確認されたことを踏まえて植物の評価点が上げられているが、過去に確認されていたアオネカズラ（より貴重性が高い）は確認されていないのか。ツメレンゲは武庫川峡谷とその周辺にふつうに見られる種であり、イワタバコも過去に記録があるため、評価点を上げるほどではない。アオネカズラは県内分布が少なく、モニタリングの必要性が高い。	ツメレンゲ、アオネカズラともに兵庫県 のレッドリストCランクであり、ツメ レンゲがこれだけ集中して生育している環 境は、兵庫県内では他に見られない。ア オネカズラは武田尾溪谷の西宮市側では 過去に確認されているが、宝塚市側に生 育しているという情報はない。また、今 回の宝塚市側の調査で、アオネカズラを 確認することはできなかった。 今回の委託調査は、これまでの具体的な 評価情報が提供されない中で実施してお り、動植物の概況調査とならざるを得な かった。自生のサツキ（県のAランク） を確認しており、他にも環境的には今回 確認できなかった多くの貴重種も残って いる可能性が高いと思われる。 これまでの具体的な評価理由が不明な状 態で新たに評価を行ったため、結果とし て評価点が高くなったと考えている。 この場所については、宝塚市でもトップ クラスに入るレベルの素晴らしい生態系 が現在も維持されていると思われ、重点 的な調査が必要と考える。その他、 ヒメウラジロシダ、ヒメアブラススキ、 コバノチョウセンエノキ、ヨコグラノキ が確認をしている。
R5	67	保与谷池湿原 ・「この谷は丸山湿原と同じ経過で湿 原となった。」と書かれているが、 どういうことか。	丸山湿原も保与谷池湿原も湧水湿原（地 表ににじみ出た水が広く浅く広がってで きた）という意味です
R5	67	保与谷池湿原 ・写真では、植生遷移や乾燥化が進ん でいるように見られる。公園として 管理されているとのことだが、丸山 湿原のように刈り取りや除伐など がなされているのか。	西谷の森公園の敷地内にあり、公園スタ ッフ、ボランティアによって管理されて いる
R5	80	惣川 ・溪流環境であるため、ミズカマキリ の確認で評価点を上げてよいのか。	惣川において上流の耕作地の環境と溪谷 の両方の環境をもつ。ミズカマキリは水 生植物の豊富な環境に生息する水生昆虫 であり、近年急速に個体数が減少してい るといわれ、県のレッドリストでは要注 目種になっている。特徴的なものとして 貴重であると判断した

R5	82	弁天池 ・過去の調査では評価点を 3 と評価されているのは、カワセミが確認されていたからか？もしくは冬鳥の生息地として重要であったからか？今回の調査では冬の調査がされていないので、過去の経緯を確認したうえで、評価点再検討（3 でよいのか判断）が必要では。	マコモのはえる都市近郊の池、マコモが野鳥の目隠しとなり、野鳥の密度も市内でも上位になると思われる。池も干してよく管理されている。その点を評価している。
R5	83	伊和志津神社 ・保護樹林として保全されているとあるが、近年の空中写真を確認すると、林冠木の伐採や一部改変の様子が認められる。管理上必要な伐採もあると考えられるが、保護樹林であれば経緯の確認などが必要。	保護樹林は入り口右にあり、枝の剪定などあまりされず、十分に保護されている。神社奥にはいるとマンション等の境目にある樹木は枝など刈られている。敷地本殿東側は道路をつける際、植栽はけずられたが、それ以外はよく保全されている。公示後は植栽されている。社殿奥の樹木も、よく管理されている。
R4	89	波豆川 ・河川工事にともなう人工護岸化・河床コンクリート化による景観変化や生息環境の劣化をきちんと評価すべきである。ゴキヅルは改変跡などにも侵入しやすい種であり、評価点が大きくなっていることに違和感がある。	ゴキヅルは本来は水辺の改変跡などにも侵入して生育する植物であったが、近年は改変跡に外来のアレチウリが猛烈な勢いで繁茂し、ゴキヅルの生育地が激減しており、県のレッドリストでCランクになっている。県内の生育地がかなり少なくなっていることから、貴重なものと判断した。他にイヌゴマの生育も確認している。
R4	90	佐曽利川 ・過去の評価ポイントである「ゲンジボタル多産」についてはどうなのか。	ゲンジボタル 多産 → 調査時期において、ゲンジボタルの幼虫は見つからなかった。
R4	92	玉瀬川 ・No.89 及び No.90 と同様。河川工事による劣化を Excel シートによる特記に取り上げるべき。	玉瀬川の工事について 河川工事により生態系の劣化は取り上げるべきだった 件について、了解します
R4	103	放棄水田 ・過去の評価ポイントである「ドジョウ、モリアオガエル、カツラネクイハムシ」がまったく見られないのであれば、動物の点は「1」でもよいのでは。	周辺の耕地改善と河川改修 動物 1 とする評価もやむえなしと思う
R4	103	・重要な生態系の消失という整理でもよい（植物相は豊富であり、耕作地として維持されることは良いことでもある）。	重要な生態系の消失、貴重なアドバイス ありがたい

R4	104	川下川 ・「オオタカ、サシバ、ミサゴの移動」と書かれているが、このエリアには繁殖地もあるのでは？過去には繁殖地として評価されていたということはないか。	猛禽類の繁殖状況の確認はかなり困難であり、今回の調査では確認できていません。
R4	105	坊川 ・過去の動物の記録「サシバ、オオタカ、キビタキ、カジカガエル、ナガレホトケドジョウ、ゲンジボタル多産」の現況はどうか。	野鳥については時期がずれているので確認できず、カジカガエルは河川が落ち着いたらもどってくるとおもわれるが、調査時点は確認できず。ゲンジボタルも同様河川改修及び土砂の洗いによって、確認することはできなかった。
R4	105	・工事にともなう改変による劣化について取り上げておく必要あり。植生の評価点は下げなくてよいか。	河川の変更は新名神から切畑にむかう道路、武田尾にむかう道路で工事の内容がちがう。切畑にむかう河川はあまりいじっていない。武田尾にむかう河川はそこを洗い河川を大きくいじっている。河川の法面がおおきく変わったのが武田尾方面、評価の点において、工事前になにがあったのか調査時にはわからないのが現状、それ以外は本来の植生が残っていると思われる。切畑に向かうところは河川が蛇行しているので、現状のまま残っている。
R4	108	立合新田川 ・植物の評価点が高くなっているのはなぜか。	個票データの転記のまちがい 2 から 1 へ訂正する。前回の評価と同じ
R4	108	立合新田川 ・地形の評価点に変化している点に違和感がある。近年の里地里山の環境変化の中で、良好な景観が維持されていることは重要、という意味で景観のポイントが高くなるのであれば理解できる。	個票データの転記のまちがい 2 から 1 へ訂正する。前回の評価と同じ
R4	108	立合新田川 ・過去は「ダルマガエル、モリアオガエル、イモリ、シュレーゲルアオガエル、ゲンジボタル多産」が評価されているが、調査結果にはほとんどあがっていない。動物の評価点が 3 のままでよいか。	調査時期には確認できていないが、地域がほとんど人の手が入っていないため、3 の評価は、調査時点では確認できなかったが、過去記載のものがいると考え評価した。大きく環境が変わった様子がない理由による。
R5	118	塩谷川左岸 ・個票に記載されている改変に加え、右岸側の斜面が防災工事により大きく改変されている。その点も踏まえて、改変による劣化が進行していることを評価しておく必要がある。	表現および留意事項の指摘感謝します

R4	123	ため池及び畦 ・過去の記録では、「グンバイトンボ、オオムラサキ、ウラキンシジミ、オオミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、スジボソヤマキチョウ」と非常に貴重な種が多数確認され、動物の評価点が3とされているが、今回の調査では確認されていない。調査時期の問題もあるかもしれないが、このような評価でよいのか要検討。	貴重種の出現時期よりも後の調査となっており確認できず。評価の変更 3 から 2 へ
R4	133	ため池 ・樹林側の遷移進行による影響が生じている可能性がある（第2の危機）。	池の水はかれることなく 2024 年のようすでもモリアオガエルの卵塊を確認、土砂の流入もわずかであるため、池の状態は続くものと思う
R4	133	ため池 ・水質は問題ないと評価されているが、天水によって涵養されているため池としては、電気伝導度の値が大きいのではないか。	電気伝導度は機械の記録をそのまま記載、調査時期にほかの課題があるかもしれない
R5	134	足洗川 ・過去の情報（Excel シート）によると、「湿原が点在」しており、貴重種であるノハナショウブが生育している点が評価されているが、個票にはその状況がまったく認められない。植生遷移により消失した可能性がある。	時期が悪かったのかわからないが、過去の情報を確認することはできなかった。
R5	134	足洗川 ・動物種としても、過去には「ルリビタキ、カジカガエル、オジロサナエ、アオサナエ、オオアメンボ」が記録されているが、これらの記録はない。調査時期の影響で確認されなかっただけなのか、環境変化により見られなくなったのか不明。	時期が大変暑い時期で悪かったのか、水生昆虫がこの年どの水系でも確認できなかった。水量も暑い夏で少なかった。